



広報

川越

— No. 336 —

6月10日

■発行所 川越市役所

■電話 川越 (0492) 24-8811(代)

■発行人 川越市長 加藤 龍二

■編集 企画部企画課



ぼくらの作文

わたしの家には、ジョンという犬がいました。わたしがジョンと仲良くなったのは、ちょうど二年前の夏でした。おとうさんが仕事帰りに犬を友人にもらってきてくれて、わたしが学校から帰ってきたら、おとうさんが、「犬をもらってきたぞ」といったので、「どこに犬は、いるの」というと「きつとまだ車の中にあるだろう」といい、わたしは、車の中を見てみると、箱があっただけで、犬はどこにもいませんでした。わたしは、うそをつかれたかと思っておとうさんに聞いてみようとすると、

おにいさんがおふろに入れ、さしきに上げてよく体をふいてあげていました。わたしは、ジョンを初めて見たときから、グッズファンドがかかっている犬で、白と黒のものもあるかわいい犬でした。いっつもいたり、バスケットに入れたら、一年後ベスが子を生み、その子犬がとてかわいいた犬でした。そのことがみんなに知れて、おあ

三匹の犬

芳野小六年 西川 浩子



と、いつもわたしといっしょに雪の中を駆け回っていました。そのうちに、のら犬が二匹ジョンといっしょに遊んでいました。一匹の犬は、わたしが行くたびに、逃げていき、もう一匹の犬は、わたしにすぐなつき、ベスという名前をつけて遊んでいると、いつも

さんが犬のすみかを見つけて、「浩子は、みんなにかくれて犬を二匹かっているだろう」といっただけで、わたしは、「よくそのことがわかったね、でも今が一番かわいそうなきんだから、一日だけいいから、かわせて」といい、次の日ベスがなせか死んだので、わたしにとつて悲しいことでした。そして、ベスが生んだ子をわたしの家で世話しました。でも育てずに死んでしまい、ジョンも自分でくさり首にまいて死んでしまいました。最後に残った犬には、しんという名前をつけ、遊んでいるうちにどこかへ行ってしまうました。でも、ときどきその犬を見かけますが、向こうの犬は、わたしを忘れているよう

写真ニュース

みなさんのまわりで明るい話題がありましたら、企画課広報係までご連絡ください。



豊かで平和な郷土の発展を祈り「平和の礎」完成

古谷公民館の敷地内に「平和の礎」が完成しました。この碑は、支那事変および第二次世界大戦に従軍された旧古谷村出身者の功績と豊かで平和な郷土の発展を祈り、あわせて戦争の惨禍を二度と繰り返さないようにするために建てられたものです。この碑には、戦没者127名、帰還者414名の名前が刻まれています。

南古谷公民館 民踊教室



グループ紹介
水田地帯であつた南古谷地区もここ数年人口増が激しく、地域住民の融和と仲間づくりのために、今年一月から民踊教室を開設しました。遠い祖先が素朴な生活の中から生みだして古くから踊り伝えられた日本の民踊、また新しい民謡等、全国の民謡をくちずさみながら、なごや

句会だより

おほかたの人はぐらぬ法廷のその門の中さくら咲く見ゆ 豊司
若き日はもどらぬものを少年のごとく無心に麦笛を吹く 豊司
柿若葉満る如きみどり牙え細き雨は一日降りつぐ 和子
読み終えてせつなき思ひ胸えぐる 和子
かつて老人を看取りし日のあり 和子
生き馬の目を抜く都心のバス停にバス待ち居ればたんばの黄 和子
すみ子

息災を祈願して写経をしている点で、河越氏を研究するうえできわめて貴重な史料といえましよう。(市史編さん室)

古代の生活を現代つ子に

月越小 (原始まつり)

五月二十六日、入間川の河原にある上戸運動公園で、月越小PTA主催の「原始まつり」が行なわれました。この行事は、現代つ子に古代の生活や自然を理解させようと約十年前から行なっているもので、昨年からはPTAの行事とし、児童・父兄全員の祭りに発展させました。当日は、各子ども会から選ばれた児童約十五人が、毛皮や木の葉を身につけ、ポール紙で作った動物に矢を放つ「狩りの行事」を行なった後、各子ども会に分かれて、ゲームやダンスなどをして楽しいひとときを過ごしました。



霞北チーム優勝

第14回ママさんバレー大会

5月27日、市民体育館で第14回川越市ママさんバレーボール大会決勝トーナメントが行なわれました。今年は50チームが参加し、当日は、予選を勝ち抜いた14チームによって決勝トーナメントが行なわれ、熱戦の末、霞ヶ関北チームが優勝しました。以下2位=藤間、3位=稲荷町と五ツ又。



川越の歴史



写経を行なった性尊は、「金剛仏子性尊」とあるところから密教の寺で星野山無量寿寺すなわち中院か北院現在の喜多院の僧であろうといわれております。「星野山仏地院遺蹟」や識語などから判断しておそらく中院の僧かもしれせん。ただ中院の過去帳には見あたらず、また現在喜多院の慈眼堂のうらにある二基の板碑にも性尊の名前はありませんが、この点は今後の研究にまつことにいたします。

巻二に「建武二年丑亥四月二未尅之を書写し(中略)金剛仏子性尊年六十七(花押)」とありますから、これから逆算して文永五年(一二八八)に生まれたもので、巻三九三を建武四年(一三三七)に書写してから以後は性尊はでてきませんので、よく建武五年あたり六十九歳ぐらいで他界したのかも知れません。

さて跋文の内容ですが、「当所」すなわち川越の「地主平重遠併に芳縁平氏の女併に平泰重等」の、子供を愛し、子孫の繁昌息災で延命増長福寿、一門の繁昌、心中願

河越氏一門の繁栄を願って 大般若経を写経

「芳縁平氏女」とは、河越氏等のように平良文を祖先とするいわゆる平氏姓の一族すなわち畠山、江戸、小林、師岡、葛西、豊島、渋谷、下河辺氏の一族の女をさしているのではいなか。平泰重はいうまでもなく河越泰重です。ただ河越氏初代の重隆や子孫で留守所総検校職の重資の名前がないのはどういいうわけなのか、現在のところわかりません。しかし中院か北院の僧が「当所の地主」である河越氏の繁栄と

う所はみな満足させ、貴賤を問わず諸もろの人の福寿長遠、以上のいろいろなことを志して大般若経の写経を行なったという意味にとれます。すなわち、中院か北院の僧性尊が河越庄の「地主」である河越重遠やかれの血縁者の女たち、および泰重等の一門の繁栄と無病息災を祈願して写経をしたものです。河越重遠は系図によると河越氏初代の重隆の弟で高山三郎と称し左衛門尉になつております。一説には現在の飯能市高山あたりに土着し、高山氏の祖となつたとはいわれております。ただ初代の弟とすると泰重と一〇〇年近くも差があり、あまりにも離れすぎていますため市史編さん委員の勝守すみ氏(群馬大学助教授)は河越氏の惣領と庶子との関係で考えた方がよいのではないかとされ、新たな問題を提起されております。



安全施設などを整備

48年度の交通安全 対策計画が決定

市交通対策課では、このほど昭和四十八年度の交通安全対策実施計画を決定しました。

これによると計画の柱は、①安全施設の整備、②市内の交通規制関係、③交通安全推進協議会・母の会の事業実施計画の三点。おもな月別の実施計画はそれぞれ次のようになっています。

道路燈や標識を設置

- 〈交通安全施設の整備関係〉
- ▽六月〇道路燈の設置二十カ所、警戒標識五十本
- ▽七月〇スクールゾーン標識百本
- 通学路の舗装・整備

交通指導員 から一言

毎年「全国交通安全運動」があらゆる時期に実施されています。しかし交通事故は、いっこうに減少しない現状です。

今までの欄に交通指導員が街頭で実際に指導したり指摘したことがらを掲載し、交通安全に努めてきましたが、それらの事項がみなさんに読まれそして実行に移されなくては、事故の絶滅はもちろん、無意味なものになるのではないのでしょうか。

かわいなお子さんを悲惨な交

一時停止などの規制

- 〈交通規制関係〉
- ▽八月〇通学路関係の規制
- ▽十月〇市街地の総合規制、一時停止の指定、横断歩道の設定
- ▽十二月〇年末年始の臨時規制

みなさんの地区で、以上のよう

な安全施設整備および交通規制を設置してほしいという希望がある場合は、市役所交通対策課へ申し出てください。なお、安全施設の整備はなるべく早めに、交通規制の設置を希望の場合は規制予定月の前月五日までに申し出をお願いします。

毎日が安全運動の日

新宿町二八一—三 小ノ澤 繁雄

省するともにも、考えてみたいものです。

ルールはからだで

子どもたちに対する交通安全の指導は、実際にからだで覚えさせることがたいせつです。親と子ど

おとなが手本を

子どもは、周囲の事情などを考えず自己中心に行動をします。また良いことや悪いことなどかまわず、おとなのまねをしたがりです。そこで、おとなもいつどこで

映画会や写真展

母の会の事業計画

川越市交通安全母の会の事業計画としては、春・夏・秋・年末年始の交通安全運動にとり組むほか巡回映画会(六月・八月)、ポスタ

スピード半分、二倍の注意

—つゆどきの運転—

うつつしい、つゆの季節になりました。この時期になると、例年雨による交通事故が多くなります。雨のときは、安全運転が事故を防止する最大のポイントです。

雨つづきの日でも、せめて心には青空のようなゆとりを持って、安全運転を心がけましょう。

事故防止のため、雨のときは次のことに十分注意してください。

子どもに見られても恥かしくないような、交通安全のルールを身につけたいものです。

以上のようなことを、子を持つ親はもちろんみんなが実行し、尊い人命を守るようにしましょう。そしてこれが地域の社会活動として輪を広げていくことを望みます。

交通事故はいつわが身にふりかかってくるかわかりません。毎日が交通安全運動の日であり、毎日が交通安全行動の日であるという気持を持ち、毎日が事故のない明るい家庭でありたいものです。

尾灯などを点灯

夜間の自動車駐停車

—写真展(十月)、交通安全意識調査(十一月)などを行ない、事故防止のため積極的につとめていく予定です。

※このほか、交差点の改良や防護柵の設置、交通安全教室の開催は随時行なっています。

▽スピードはふだんの半分に落とすとともに二倍注意をする。

▽車間距離も多めにとる。



▽ハンドルをきるにしてもブレーキを踏むにしても、ゆつくりと慎重に操作する。

▽急に飛び出しがあっても避けられるような速度で運転する。

▽カサをさした歩行者は、水たまりなどに気をとられて急に道路の中央に出てくる時があるので、とくに気をくばって通行する。

交通指導員を増員

市では、五月二十四日付で次の四人を川越市交通指導員に委嘱しました。これで市の交通指導員は四十五人になりました。(敬称略)

▽桐野博司(霞ヶ関北六丁目一〇一)
▽小杉征治(東田町九一三)
▽尾崎好孝(大字府川三三〇—四)
▽楠筒亮介(大字の場六二九—五)

ただし、高速自動車道および自動車専用道路では後方五百五十センチからその他の道路では後方五十センチの距離からはっきり見える程度の照明があるときは、非常点滅燈や警告反射板の必要はありません。

このほか不明の点は、川越警察署交通課(☎421-0100)へお尋ねください。